

5 実施状況写真



Ⅱ-3 竹産業等振興対策事業（竹林楽校）

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（林産振興室）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

本県は全国2位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

（2）目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

（3）事業内容

- ①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等
研修生22名／研修3回実施
- ②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて2回開催
竹工芸訓練センター訓練生12名
大分林業アカデミー研修生 8名

3 成果

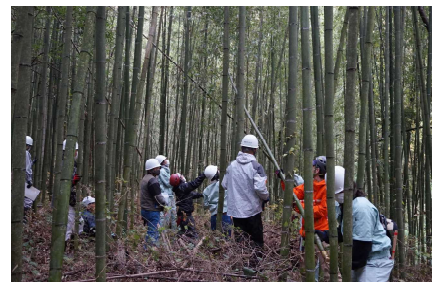
たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター訓練生および大分林業アカデミー研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。

第2回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の2コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いPRを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と、人材確保を推進する。

5 実施状況写真



Ⅱ－４ 伝統的工芸品産業振興事業

【商業・サービス業振興課】

1 実施主体

(主催) 全日本竹産業連合会、一般社団法人大分県竹産業文化振興連合会

(後援) 林野庁、大分県、別府市、一般社団法人全国燃料協会、一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

伝統的工芸品産業全体の年齢構成が高齢化し、後継者が不足している。特に竹業界では、川上である「切り子」が高齢化により激減しており、原竹の一次加工業である製竹業が衰退傾向にある。

また、SDGs に則し、環境に優しく二酸化炭素削減に貢献する「竹」を、資源として再活用することが検討されている。そのほか、竹筋コンクリート等新たな可能性のある素材の新たな活用方法が開拓されつつある。

(2) 目的

竹製品の開発・竹文化の継承発展や、竹業界における相互の連携強化を図ることを目的とした、全日本竹産業連合会主催「全国竹の大会」を大分県で開催。

なお、本大会は毎年、竹産業が盛んな都道府県が持ち回りで開催している。

(3) 事業内容

・第63回全国竹の大会の開催

【日時】令和5年2月17日(金) 13:00～

【場所】別府国際コンベンションセンター (B-Con Plaza)

【内容】式典・感謝状贈呈式・記念講演・パネルディスカッション等

3 成果

新型コロナウイルスの感染拡大により3年ぶりの開催となった今回の大会には、全国から100名以上の竹産業関連事業者が参加した。

式典では、林野庁特用林産対策室室長を始め、県やタイ国等の様々な関係機関の来賓があり、これまでに功績のあった竹産業事業者へ感謝状等の贈呈を行った。

また、記念講演やパネルディスカッションにおいては「つなごっちゃ 竹みらい」の大会テーマのもと、竹産業における課題の提起が行われ、竹産業を未来に繋ぐための事業継承や後継者育成、持続可能な新しい資源としての利活用方法が話し合われた。

4 今後の課題と取組

次世代の竹産業を担う人材の確保は最も重要な課題である。本事業等を活用しながら、国や県、市町村、竹産業関係団体等が一体となって、後継者育成や事業継承等の活動に取り組んでいく。

5 実施状況写真



(大会式典)



(記念講演)



(パネルディスカッション)

Ⅲ－１ 魅力ある景観づくり推進事業（景観伐採事業）

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

4市（中津市、佐伯市、竹田市、宇佐市）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

（２）目的

観光ルート沿線等において、景観の支障となっている樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

（３）事業内容

景観の支障となっている樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	平田吉胤頌徳碑前（中津市）、城山歴史公園（佐伯市）等 4市5箇所	1／2以内

3 成果

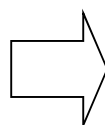
- ・観光ルート沿線等の景観が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や遊歩道の整備が行われる等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合、協力を得られないケースがある。景観の再生につながった事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真

〈仙の岩（宇佐市）〉



Ⅲ－２ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1. 新たな森林づくり推進体制整備事業

(1) 実施主体

大分県

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

②目的

大分県森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、県森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による県森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

③事業内容

・「大分県森林づくり委員会」の開催

令和4年度は第4期大分県森林環境税の2年目であり、第4期の県森林環境税の活用を円滑に推進するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R4.6.29	・令和3年度森林環境税活用事業の実績 ・令和4年度森林環境税活用事業の予算概要
第2回	R4.10.19	・令和5年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R4.12.22	会議 ・国の森林環境譲与税について 現地視察 ・九重青少年の家（森林・林業教育の取組） ・九重町田野（再造林促進事業現地）

・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う「森林づくり提案事業」の審査や事業成果の検

証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部・大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の審査、実績の検証 ・意見交換等	書面決議

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催 (R4年度 3回開催)

森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、本県の50年後のあるべき森林の姿と、森林環境税を活用した災害に強い森林づくりや低コスト再造林の推進などの、次世代の大分森づくりビジョンの取組状況についての報告と検証、及びビジョンの見直しに向けた議論を行った。

(3) 成果

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、書面により各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、大分県の森林づくりにかかる課題・取組状況・成果を包括的に検証し、ビジョンの見直しに向けた方向性を整理することができた。

(4) 今後の課題と取組

多くの県民に大分県森林環境税や森林づくりに対する興味・関心を持ってもらうため、令和4年度に当県で開催された全国育樹祭を契機として、一層の県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGs や脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

2. 森林づくりボランティア支援事業

(1) 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、令和3年度の参加者数は前年度と同水準を推移した。(令和4年度参加者数：11,769人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

②目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

③事業内容

・森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

ア 森林ボランティア情報の発信



【センターHP】



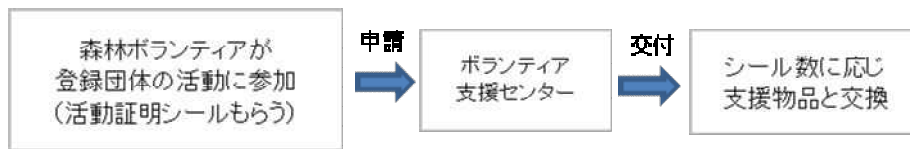
【ボランティアセンター通信】

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和4年度は50回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



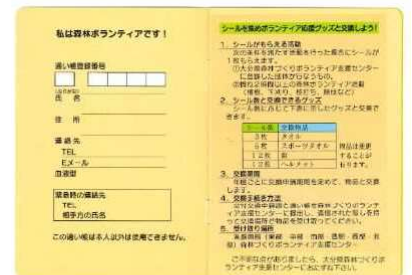
森林づくり活動実績に応じて、令和4年度はタオル・鎌・鋸などの支援物74点を32名に交付した。



【支援物品】



【森林づくりボランティア通い帳】



ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育講座（チェーンソー）」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」によって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

【研修の様子】

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	4人	伐木作業の基礎知識。実習等
刈払機	1日×2回	2人	刈払機の基礎知識。実習等



〈実習〉



〈学科講習〉

【令和4年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO 法人グリーンインストラクターおおいた
1) 森林ボランティア情報の収集・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・HPによる森林ボランティア情報の発信（50回更新 / 年） ・「大分県森林づくりボランティア支援センター通信」の発行（1,000部 / 月） ・森林づくりフィールドの募集および情報提供 （① フィールド情報を募集②現地調査情報を登録③団体、企業等に斡旋）
2) 森林ボランティアの登録（新規 個人49名、団体1組）
3) ボランティア通い帳の発行（49冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 相談対応4件・・・自然観察会の開催等 情報提供2件・・・二酸化炭素削減に関わる団体の情報提供等
5) 森林づくり活動支援（人材斡旋16回、73人）
6) センター施設を利用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・施設利用団体：10団体 ・年間利用者数：836人（累計）

・森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

令和4年度 森林づくり提案事業実績

局	整理番号	活動団体名	活動場所(市町村)	活動内容	新規継続	活動者数
東部	1	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	継続	81
	2	護町会	杵築市	竹林整備	継続	48
						129
豊肥	1	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	継続	116
	2	特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	継続	61
						177
西部	1	200海里の森づくり実行委員会	日田市	森林づくり活動	継続	100
						100
北部	1	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林づくり活動、森林環境教育活動	継続	32
						32
総計					6団体	438



草刈作業（豊後大野市）



森林教室（中津市）

・ **森林山村多面的機能発揮対策事業**

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する（実施団体：11団体）

令和4年度市町村別活動団体数

大分市	4団体
由布市	4団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体

・ **企業参画の森林づくり推進事業**

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和4年度までの協定締結企業は34社となっており、1社が協定を締結した。

〈令和4年度 協定〉

- ・ 日本フォレスト株式会社



【植樹の様子】

（3）成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では6団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ11,769人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人（人）	参加者数（人）	目標参加者数（人）	達成率
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%
R4	106	2,932	11,769	13,500	87%

（４）今後の課題と取り組み

新型コロナウイルスの影響で活動を縮小・休止する団体もあったが、感染予防のガイドライン等を周知し、森林ボランティア参加者数の維持につとめた。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

3 おおいたの森林づくり広報推進事業

（１）実施主体

大分県

（２）実施事業の概要

①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

②事業内容

マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 5回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 2回（森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）
- ・ 「九州エコファミリー応援アプリ（エコふぁみ）」内お知らせへの掲載

【Facebook ページイメージ】



その他の広報活動

- ・大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布（各2500部）
- ・各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。（R4もりりん貸出し回数：6回）
- ・「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・森の先生派遣事業チラシの作成
- ・県で開催された「令和4年度全国育樹祭」開催にあたって、ラジオ番組出演、新聞広告等を通じて森林環境税事業の周知を行った。

02



【森の先生チラシ】



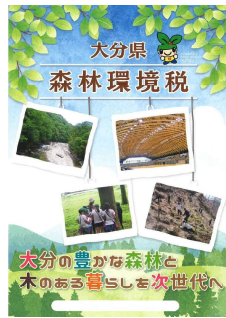
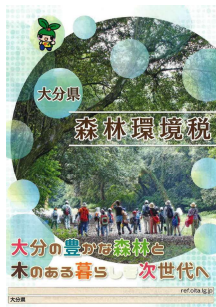
【ガイドマップ】



【タペストリー】

【環境税チラシ・パンフレット】

【PR用ばんそうこう】



○PRの様子

【もりりん着ぐるみによるPR】



【農林水産祭でのPRブース】



(3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い（認知度は50%）。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。

Ⅲ－３ 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

1 森林林業教育促進事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

その他、体験型子ども科学館 0-Labo と連携した森-Labo を実施し、公募による森林・林業体験講座を実施。

③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月2日（土） 10:00～15:00	大分県森林づくりボランティア支援センター外	身近な自然と友達になる方法	樹木医 森林インストラクター 石井 誠治氏	30
2	8月27日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりボランティア支援センター	「大分の森林・林業」	大分県林務管理課 主査 小関 崇氏	26
3	9月3日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりボランティア支援センター	木材のすすめ ～環境に優しい木質材料～	大分県林業研究部アドバイザー （農学博士） 城井 秀幸氏	24
4	12月12日（月） 9:15～16:00	① 農林水産研究指導センターきのこグループ ② 佐伯広域森林組合	① しいたけ栽培と流通 ② 木材の流通と加工	きのこグループ（甲斐副主幹） 森林組合（各担当）	21
5	1月14日（土） 10:00～12:30	大分県林業会館新館	① 学習指導要領における「森林・林業」の位置付けと教育活動 ② 「森林ESD」の考え方と進め方	① 京都教育大学 教授 山下 宏文氏 ②（一社）東京学芸大explay ground推進機構 木俣知大氏	26
6	2月25日（土） 10:00～15:00	① 高尾山自然公園 ② 大分県森林づくりボランティア支援センター 研修室	自然観察会など森林・林業体験学習活動の進め方 修了式	森林・林業教育指導者 ① 渡辺 政治氏(全般) ② 江口 初男氏(野鳥) ③ 瀬口 三樹弘氏(樹木)	28

○体験フィールドの選定（3箇所）

- ・場 所 九重青少年の家、香々地青少年の家、県民の森
- ・対象者 小学生、中学生
- ・テーマ 人工林と天然林、また標高差などそれぞれのフィールドで、そのフィールドの特徴を活かし、自然体験を通じて自然の楽しさ、不思議さを感じる

○森林・林業教育プログラムの実施（3回）

- ・森の子学校体験活動推進事業（社会教育課）における森林・林業教室（森林への興味・関心向上、森林に親しむ、椎茸と林業、森と海のつながり、林業地観察 など）

○体験型森林講座森-Labo の開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月24日（日） 13:30～15:30	大分県森林づくりボランティア 支援センター	木を科する ～木のオモシロ実験～	大分県農林水産研究指導センター 林業研究部 アドバイザー (農学博士) 城井 秀幸氏	11
2	8月20日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	この木なんの木？ ～森の木で遊ぼう～	森林・林業教育指導者 渡辺政治氏、鬼塚隆子氏	11
3	9月25日（日） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	「きのこってどんな生き物？」	大分きのこ会 波多野 英治氏 波多野 敦子氏 高倉 芳樹氏 (農学博士) 村上 康明氏	34
4	11月19日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	秋は木のタネがおもしろい！	森林・林業教育指導者 渡辺政治氏、鬼塚隆子氏	16
5	12月17日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）及び 大分県森林づくりボランティア 支援センター	「野生動物のフィールドサインを探 そう」	応用生態技術研究所長 足立 高行氏 大分県環境教育アドバイザー 森田 祐介氏	10
6	1月15日（日） 13:30～16:00	大分県森林づくりボランティア 支援センター	家の木造模型を作ろう	一級建築士 板場 奈美氏 〃 高橋 由美氏 〃 淵 智子氏 大工棟梁 光井 智 氏	18
				(延べ) 15名	100

④ 実施状況写真

- ・研修会開催の様子



【研修会開催状況】



【現地実習】

・プログラム実施の様子



【樹木オリエンテーリング】



【椎茸生産と林業について】

・森-Labo 開催の様子



【きのこってどんな生き物？】



【木造模型をつくろう！】

(3) 成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者30名を育成することができた。
- ・森林・林業教育プログラムを作成・実施し、森林や林業への興味・関心を高める取組を検討できた。
- ・一般公募による森-Labo を開催することで、森林・林業に興味を持つ子ども達を広く募り、学びを深めることができた。

(4) 今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、今後も学校教育における森林・林業教育の位置づけを理解し、森林・林業教育を実施できる指導者の育成を行うとともに、指導者の活躍の場の創出に努める。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、引き続き森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

2 森林林業教材作成事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

(2) 実施事業の概要

① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらおう環境を整備した。

また、県内各地の「森づくりのストーリー」を動画として取り上げることで、様々な人たちが森づくりに関わり、取組を継続していることについて学ぶ教材を制作した。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

(3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

(4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

3 森の先生派遣事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

(2) 実施事業の概要

① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 2	R 3	R 4
派遣回数	81回	78回	102回
派遣人数	397人	410人	497人
森林体験者数	3,217人	2,926人	3,898人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 2	R 3	R 4
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	37人	46人	23人

④ 実施状況写真

・森林体験学習の様子



【自然観察会】



【別府大学での研修会】

- ・研修会の様子



【ネイチャー・フィーリング】



【森の先生ノウハウ共有会】

(3) 成果

- ・保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を102回派遣し、3,898人が森林体験活動を体験した。
- ・令和4年度は森の先生を対象に研修会を行い、実際に学校現場で働いている方を講師として、現状に即した子どもたちへの接し方を学んだ。また、別の研修会では、森の先生同士でノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

(4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、将来的には学校関係者にも参加してもらい、知識を共有する。

4 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体

市町村、大分県

(2) 実施事業の概要

①目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

②事業内容

- I 樹木医の診断に基づく樹木の治療
 - ・不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
 - ・踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など
- II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

③R4実績

- | | | |
|-----------|-----|--|
| ・治療 | 2件 | 別府市：火男火売神社の森 イチイガシ、
竹田市：城原神社の森 イチョウ |
| ・樹木医診断 | 1件 | 津久見市：ウバメガシ |
| ・標柱・標識の設置 | 2箇所 | 国東市：2箇所 |